

第三者意見

北田皓嗣(きただ ひろつぐ)

法政大学経営学部准教授

神戸大学博士(経営学)。日本MFCAフォーラム運営委員。ISO/TC207/WG8/エキスパート。会計学を専門とし、環境管理会計の普及と浸透に関する研究を重ね、現在は日本MFCAフォーラムが主催する「SDGs研究会」にアドバイザーとして参加するなど、サステナビリティ経営に関するテーマにも活動の幅を広げている。著書に「創発型責任経営」(日本経済新聞出版社)など。



サンデングループは、中期経営計画「SCOPE 2023」の中で事業を通じたSDGsへの貢献を明示されており、事業活動とサステナビリティの連携を進めています。5つの重点分野を設定し、関連性の高いSDGsとリンクさせることで、CSRへの取り組みと社会課題との関係がより包括的に捉えられるようになってきました。SDGsは2030年までの目標として設定されているので、より長期的な展望でサステナビリティへの貢献と事業を通じた価値創造を進めていくことが期待できます。またCSRレポートの中でも代表的な取り組み事例との関係性が整理されているため、個々の取り組みの位置付けが明確になり分かりやすい報告書に仕上がっています。これらは重点領域として掲げられている「環境」「人」とも整合的であり、全体としてバランスの取れた活動が展開されています。

長年にわたりMFCA(マテリアルフローコスト会計)への取り組みを進められてきていることは、サンデングループの環境への取り組みの中でも特筆すべき点であるといえます。欧州でサーキュラー・エコノミー政策が進められるなかで、資源利用への関心は世界的にも改めて高まってきています。また「省資源・省エネルギー・持続可能な企業経営のための研修」を通じて、バングラデシュを中心とした海外からの参加者に向けてMFCAの研修が行われている点も高く評価できます。ISO14051として国際標準規格が発行されて以降、途上国を含む多くの国でMFCAへの関心が高まってきました。グループ内での展開

のみにとどまらないMFCAの普及活動は、国際社会への貢献度が高い取り組みであるといえます。

重点領域としてもうひとつ挙げられている「人」について、従業員の働きやすい職場環境が整えられています。ダイバーシティへの取り組みについては明確な目標を設定され、進捗が管理されています。ワークライフバランスについても充実したキャリア支援制度が設定されており、従業員の多様な働き方を支援する体制が整えられています。そして「健康経営優良法人(ホワイト500)」にも選出されているように、サンデングループの取り組みは社会的にも高く評価されています。

2018年度にスタートした「第4次中期環境基本方針」について、今年度は概ね計画通り活動が進捗していました。社会活動の目標についても、「お客様」「社員」「株主・投資家」「地域社会」「お取引先様」のそれぞれについて、堅実な取り組みを展開されています。今後の課題は、中期経営計画でも掲げているSDGsとの関係性を、中期計画や年度ごとの活動の目標と結びつけていくところにあります。サンデングループでは重点課題として位置付けられている「環境」「人」に対して積極的な活動が展開されています。これらを社会的に確立されたSDGsなどどのように関連付けていくのか、またサンデングループの活動を通じてさらなる貢献ができる領域はあるのかといった点を整理することで、より有意義な成果が生まれることが期待できます。

第三者意見を受けて

CSRレポート2019より、サステナビリティ経営の研究にも幅を広げる法政大学北田皓嗣先生に、第三者意見をお願いしました。当社の取り組みに対し、貴重なご意見とともに今後に向けたご提案をいただき、御礼を申し上げます。サンデングループとしての重点課題「環境」と「人」への取り組みでは高い評価をいただき、今後の活動にも弾みがつきます。また、当社は、新中期経営計画「SCOPE 2023」でSDGsを経営に組み込み、CSRとしてその実現に貢献すべく取り組むことを宣言しました。これは、自動車機器事業で成長を目指す当社にとって、企業の付加価値を向上させる重要な取り組みのひとつです。今回ご提案いただきました示唆のとおり、社会課題と事業活動の関連付けを早期に具体化して戦略的なCSR活動を推進し、ステークホルダーの皆様から信頼される企業の実現を目指してまいります。



執行役員 総務法務本部長

寺尾 博己